

年間第二主日

第一朗読 イザヤ 62・1-5

第二朗読 一コリント 12・4-11

福音朗読 ヨハネ 2・1-11

2022.1.16

カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

異邦人が宗教に信仰を持つ要因の一つは恐怖です。罰されるのを恐れさせ、掟に従わせています。しかし、恐怖心に支配される信仰は、神様と人間の関係が憂鬱になってしまいます。預言者は言いました。神様と人間の関係は喜びの対話の関係、家族のような関係になってほしい。憂鬱な関係は、ワインも美味しい料理も提供されない、自由もない、退屈な婚礼に参加したようなものです。教条主義の宗教、法律主義、賞の制度が現れるたびに、人間と神様の関係が歪みます。信仰の本来の質が変わってしまい、規定を守るようになってしまうため、決して神様は喜びません。

第一朗読 イザヤの預言

旧約の中で神様は花婿と記載されています。イスラエル人は花嫁です。イスラエル人は人間と神の関係を理解するのに時間がかかりました。エルサレムは花嫁です。しかし、エルサレムは夫への忠実を破り、たくさんの愛人がいました（カナン神、アッシリヤ神、バビロン神など）。彼らは彼女を誘惑し、後で捨てていました。

これでイスラエルは神様との結婚が終わりだと思いましたか？

預言者によると、花嫁がどうであれ、神様は妻を愛し、自分の花嫁を忠実に信じています。だからエルサレムは新しい名前を得ました、それは「望まれるもの」という名です。

第二朗読 コリントの教会への手紙

賜物は人を心配させるべきものではありません。もしコミュニティーの中で異なる賜物が分裂を起こすなら、この賜物はお勧めではありません。賜物を利用し、目的を達成するため、分裂と競争をしてはいけません。お互いに仲良くすべきです。

ヨハネの福音

ヨハネの福音には7つ秘跡が記載されています。

ぶどう酒は幸せと愛のしるしです。

イエスの時代、イスラエル人は天国を期待していました。でも天国は彼らから遠い感じがします。かれらは悲しみました。どうしてこんな状況になったのでしょうか？ 彼らには神様との融和的な関係が欠けていたからです。律法学者の教えと解釈は、人々が法律を固守することです。自分たちが不潔で罪を犯しているから、と思っています。それでユダヤ人の清める儀式があります。六つの用いる石は宗教の表面を清める儀式。実は表面的な儀式では心の平和と喜びを得られません。

いくら最高級のぶどう酒を使っても、それは清める水にはなりません。イエス様のぶどう酒だけが清めることが出来るのです。イエス様の生きている水こそ、この世界を甘く、美味しいお酒にすることができます。ぶどう酒がない婚礼は、イスラエル人の悲しみと失望の境遇のしるしです。法律条文は神様への愛を代表することはできません。

マリヤ様はぶどう酒が足りないことを最初に知っていて、探しに行った人を代表しています。わたしたちに何が足りないのかを一番知っておられる方です。わたしたちも自分を見つめ直し、教会のため、永遠の命を得るためにすべきことを考え、行動すべきだと思います。

皆さん、今日このミサで、わたしたちが心の喜びと平和を預かることができますように、神様に祈りましょう。